



新年にあたり

令和8年の新しい年を迎え、皆さまにおかれましては健やかに初春をお迎えのことと存じます。昨年中は多くのご支援とご指導を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、新政権発足直後に編成された大型補正予算に見られるように、財源の多くを将来世代の負担に委ねざるを得ない国の財政運営に、強い危機感を覚えました。また、政策の是非を国民とともに丁寧議論する姿勢がやや弱まり、政治と社会の間に緊張感が薄れつつあることも、見過ごせない課題だと感じています。国の動きは、地方財政、そして私たちの暮らしに直結します。だからこそ今、現実を正面から見据え、持続可能な判断を積み重ねていく責任が、地方議員である私たちにも強く求められています。

一方、熊本県ではTSMC第2工場の行方、スポーツ施設整備の方向性、熊本空港アクセス鉄道の検討、熊本市圏の渋滞緩和、県立高校の定員減少など、県・市の将来を大きく左右する重要な局面を迎えています。企業進出による経済効果が期待される一方、地下水や農地の保全、労働力不足、生活環境への影響など、私たちの足元の暮らしを守る視点も決して後回しにすることはできません。短期の成果だけでなく、10年、20年先を見据えた「丁寧な舵取り」が、今まさに求められています。

こうした国・県政双方の課題に対し、私はこれまで以上に政策の検証と情報発信に努めるとともに、地域の皆さまの声を真摯に受け止め、迅速に行動する姿勢を貫いてまいります。

本年が皆さまにとって実り多き一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



御幸小学校創立150周年

12月12日、御幸小学校創立150周年記念式典と「みゆきの森マルシェ」に参加させていただきました。当日は好天に恵まれ、長い歴史の節目に地域の皆様とともに立ち会うことができ、大変光栄に思っております。

記念式典では、児童代表の挨拶が非常に立派で、学校の歴史を未来へつないでいこうとする思いがしっかりと伝わってまいりました。また、創立当初の白黒写真から現在までの歩みを紹介する映像に御幸小が地域とともに歩んできた長い歴史を実感いたしました。

続いて開催された「みゆきの森マルシェ」では、開会にあたりもち投げをさせていただきました。くまモンの来場もあり、子どもたちをはじめ参加者の皆さんの笑顔があふれ、地域全体が温かい一体感に包まれていました。

児童数が減少する地域も多い中で、御幸小が現在も発展し、児童数が増加していることは、地域の魅力と活力を示す何よりの証です。夏祭りや健康ウォークなど、多くの方が参加される地域行事が定着していることも、御幸校区の大きな強みだと感じました。

今回の150周年行事を支えてこられた学校関係者の皆様、PTA・地域の皆様に心より感謝申し上げます。御幸小のさらなる発展と、地域の一層の繁栄をお祈りいたします。



くまもと技能フェアに参加して

11月29日、秋晴れの青空が広がる中、辛島公園で開催された「くまもと技能フェア」の開会式に参加しました。今回、熊本県技能士会連合会に所属する35団体もの皆さまが参加され、会場となった公園一帯は朝から多くの家族連れで大変な賑わいでした。

入口のアーチをくぐると、青いテントが立ち並び、17のブースでは職人の皆さんが温かく子どもたちを迎えておられ、まさに『技の祭典』にふさわしい活気にあふれていました。

私たちの暮らしは、衣・食・住のどの分野をとっても、職人の皆さんの技に支えられています。 キャンドルづくり、光るだんご、竹馬づくり、鉄筋の結束体験、瓦ぶき体験、銅版レリーフなど、今回のフェアを通じてその技術の奥深さを改めて実感しました。

現在、多くの産業で人手不足が叫ばれています。この日の会場には、未来の職人の誕生を予感させるような光景が広がっていました。テントの中を覗くと、小さな手で真剣に作品づくりに取り組む子どもたちの姿があり、職人さんが優しく寄り添いながら指導する様子がとても印象的でした。キラキラした目で作品を



見つめる子どもたち、完成した作品を誇らしげに見せてくれる姿…その一つひとつが、技能の継承の尊さを物語っているように思えました。

ものづくりは地域の経済を支えるだけでなく、文化を育み、次代の担い手を育てる重要な営みです。今回のフェアを通じて、熊本の技能を未来へ確実につないでいくためにも、県として引き続き支援を続けていく必要性を強く感じました。改めて、職人の皆さまの情熱と努力に深く感謝申し上げます。

新たな試み

いつも「高島和男がゆく」をご覧いただき、ありがとうございます。この広報誌をもっと身近に感じていただけるように、今号から『みなさんの声をお聞かせいただく仕組み』を始めることにしました。左記のQRコードから、どうぞ気軽に思ったことをお寄せください。

実はこの取り組みのヒントになったのは、過日、お話をうかがった日本一の購読者数を誇る雑誌「ハルメク」山岡朝子編集長の講演でした。山岡さんは「読者一人ひとりの想いや本音に寄り添うことが、誌面をもっと良くし、信頼を育てる」と語られました。その姿勢に強く心を動かされ、「高島和男がゆく」も皆さんと一緒に育てていきたい、と感じたのです。

いただいた声は、私自身の活動にも、広報誌の内容づくりにもしっかりと生かしてまいります。どうぞ、一言でも大歓迎ですので、お気軽にお寄せくださいませ。



アンケートQRコード
スマホで読み取ってください



高島和男事務所

〒862-0962
熊本市南区田迎 2-17-7

届けます！あなたの思いを県政に
高島和男サポーター募集中です！

TEL.096-288-6004
FAX.096-288-6009

動画を毎月公開しております！
ホームページをぜひご覧ください。

<https://takashima-kazuo.com>

Facebookもやっています！

